

【公表】事業所における自己評価総括表

事業所名	児童ルームたっちキッズ永岡			
保護者評価実施期間	令和 7年 9月 1日 ~ 令和 7年 9月 30日			
保護者評価有効回答数	対象者数	29名	回答者数	26名
従業者評価実施期間	令和 7年 9月 1日 ~ 令和 7年 9月 30日			
従業者評価有効回答数	対象者数	7名	回答者数	7名
総括表作成日	令和 7年 11月 1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・拡充を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に 行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・経験豊富な専門職が従事している。	・常に療育の質が落ちないよう、保育士や児童指導員、言語聴覚士などを可能な限り配置するなど、工夫をしている。	・積極的に会議や研修等を実践し、より専門性のある支援が提供できるよう体制を整えていく。
2	・一人一人の習熟度に合わせた療育支援を行っている。	・聴覚・ビジョントレーニング等の療育プログラムを習熟度別で実施し、よりきめ細かな支援を行っている。	・保護者へ分かりやすい説明を心がけ、また定期的にお伝えができるよう、工夫していく。
3	・職員間で積極的に情報共有し、子どもと保護者のニーズや課題に対して、子どもの特性を理解しながら、日々取り組んでいる。	・季節に合った行事を取り入れ、また活動を通して、日常生活での動作の習得や集団生活への適応に向けた支援を行う。	・学校通常日でも可能な限り取り入れながら、様々な経験を通して成長できるよう心がけていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組みや 工夫が必要な点等
1	・地域のこどもと活動する機会が不十分である。	・地域施設を活用する機会はこれまでよりも増えてきているものの、利用者の安全確保や交流先での事故防止の観点などにより、参加が難しい状況である。	・今後も地域施設や公共機関等と連携し、地域交流の機会や経験が制限されないよう、積極的に交流を図っていく。
2	・きょうだい向けの交流の機会が少ない。	・保護者交流会を実施し、利用者・保護者同士の交流機会を設けているところであるが、きょうだい向けに事業所側から発信する機会が少ない。	・今後実施するにあたり、事業所側が保護者交流会などを活用し、その機会を検討していく。
3	・療育スペースが十分に確保できないことがある。	・利用者の高学年化が進んでおり、利用状況によって異なる事もあるが、運動内容によっては、狭いと感じることがある。	・構造的な問題である為、状況に応じグループ分けを行うなど、スペースの有効活用を心掛けていく。